

令和 7 年 度

幼稚園教育自己診断票
結果

東金市立公平幼稚園

※各項目の評価については、A=4、B=3、C=2、D=1として合計して平均値を出したものを示してあります。

内 容			評価平均値
園 の 組 織 と 運 営	教育目標	1 東金市の教育指導目標『生きる力の育成』から教育目標に立てましたが、幼児の実態に合ったもので、具体的に実践しやすいものでしたか。	3.6
	経 営	1 園務分掌の分担・割り当ては、職員それぞれに適切でしたか。	3.8
		2 分担された分掌は、適切に処理しましたか。	3.2
		3 学年運営は円滑に行いましたか。	3.0
		4 幼児の実態に合った学級経営をしましたか。	3.0
		5 職員会議では、自由に意見が言えましたか。	3.6
		6 職員の意見は、園運営に反映されていますか。	3.8
		7 報告・連絡・相談がしやすい風通しの良い職場ですか。	3.6
	研修・研究	1 園内研修は適切で、職員の共通理解のもと研究が推進されましたか。	2.8
		2 研修や研究の成果が日常の保育実践に生かされていますか。	3.2
		3 研究会・研修会等に参加し、自己研鑽に努めましたか。	3.0
反省点		改善案	
- 研究のねらいや重点については職員それぞれの受け取り方に差があり十分な共通理解には至らなかった。そのため理解が具体的な実践行動にまで結びつかず研究を深めることが難しかった。 - 分担された分掌が、後手になってしまうことがあった。 - わからないことを聞きながら園務分掌を進めたつもりではあったが、スムーズに進められなかったり遅れてしまったりすることがあった。 - 行事の準備がギリギリになってしまった。 - 園内研究では、幼児の実態に合わせ柔軟に進めていきたいと思うものの、職員間で共通理解をしながら進めていくことの難しさを感じた。 - 市の教育指導目標を基に、幼児の実態に沿った目標を立て、共通理解をめざし園内研究をおこなったが、進め方や共通理解については課題も多く、難しさを感じた。		- 研究の重点やねらいをより明確に示し、年度や各学期の節目ごとに確認する機会を設け、職員間の認識のずれを減らしていく。 - 見通しをもって取り組んでいきたい。 - 自分なりに業務内容をリストアップし、わかりやすくする。 - スケジュール管理ができるよう、職員間で確認し合うようにする。 - 今年度の研修で園内研究について学んだことを活かし、職員が自由に意見を伝え合い幼児の実態に即した研究になるようにしていきたい。 - 園内研究を進めていくための時間を確保するとともに、職員一人一人が幼児の実態把握に努め、自分の保育の振り返りを十分にできるような研究となるように工夫したい。進め方については毎年課題となっているので、研修会への参加等新たに学ぶ機会を活用するようにしていきたい。	

内 容				評価平均値
指導の重点	教育計画	1	年間指導計画は、幼児の実態や地域性、教育要領の改訂の重点を考慮して作成しましたか。	3.5
		2	週日案は、提出期日を守り見通しをもって作成することができましたか。	3.3
		3	園行事等の計画とその運営は適切でしたか。	3.7
			行事名 評価平均値 行事名 評価平均値	
			・始業式・終業式 3.8	・入園式・卒園式 3.8
			・誕生会 3.8	・園外保育 3.8
			・お楽しみ会 3.8	・フリー参観 3.8
			・運動会 3.8	・生活発表会 3.8
	内容、方法	1	年間指導計画・週日案にもとづいて保育できましたか。	3.3
		2	幼児の興味・関心・意欲を喚起した保育活動の工夫・改善ができましたか。	3.3
		3	一人一人の発達に応じた課題に対して、教師の配慮や指導が適切にできましたか。	3.0
		4	日常の保育において、幼児が自信や意欲を高めるような援助をしましたか。	3.3
		5	発達段階に応じた基本的な生活習慣を身に付ける指導ができましたか。	3.3
		6	日々の保育の記録を取り、次の指導計画に生かしていますか。	3.0
		7	特別に支援を必要とする幼児に適切な支援をしていますか。	3.3
	環 境	1	用具や材料は、ねらいや活動内容に即して準備し配置していますか。	3.0
		2	他学級との連携を保ちながら、保育の場を設定していますか。	3.0
		3	幼児の活動に合わせた環境を工夫していますか。	3.0
		4	幼児が安心して生活できる人間関係づくりに努めましたか。	3.0
	反省点		改善案	
	- 一人一人の実態に応じた援助や支援を心がけてきたが、個別対応に意識が高くなり、集団全体への働きかけとのバランスが十分にとれていなかった。 - 用具や材料の準備が不十分なことがあった。 - 教師の思いを環境に出しすぎた部分があった。 - 子どもが苦手とする動きや動作を、遊びの中に意図的に取り入れることをもっと工夫できたらよかった。 - 課題や反省点はあるものの、幼児の実態に合わせ、主任教諭を中心に連携を図りながら保育する姿が見られた。		- 個別の支援を大切にしながらも、集団の中で育つ力に目を向け、支援を必要とする子も含めた全体への指導の在り方を再検討していく。 - 必要な量を予測し、十分に提供できるようにする。 - 子どもの思いが出るまで、見守る部分も作っていく。 - 研修等の機会を活かし、環境や遊びの工夫をしていく。 - 園の実態の変化に柔軟に対応しながら、常に“子ども達のために”という視点で教育計画や環境構成をめざしたい。	

内 容			評価平均値	
	安 全	1	危機管理について、意識の向上に努めていますか。	3.4
		2	施設設備は、日常的に点検や管理が行われていますか。	3.8
		3	室内の安全、採光、換気、保温、整理整頓などに配慮していますか。	3.4
		4	事故や問題が起きた場合、上司へ報告し保護者への説明や対応は敏速かつ的確に行っていますか。	3.8
家 庭 や 地 域	保護者との連携	1	保護者とコミュニケーションを積極的にとり、保育に生かしていますか。	3.4
		2	家庭への連絡や降園時の連絡をきめ細かく行っていますか。	3.2
	地域との交流	1	機会をとらえ、地域の人々に幼稚園に親しんでもらえるように工夫していますか。	3.6
		2	地域の施設や自然などを保育に取り入れようとしていますか。	3.6
	子育て支援	1	幼稚園のふれあい広場は、計画や内容を吟味し工夫しながら実施していますか。	3.6
		2	預かり保育の幼児の健康状態や連絡事項などについて、講師と密に連絡を取り合っていますか。	3.8
域 と の 連 携	反省点		改善案	
	・ふれあい広場では、活動内容が固定化し流れも例年同様であったため、新たな参加につながる工夫が十分ではなかった。周知方法が限られており、参加人数も少なかった。 ・登降園の際、保護者とのコミュニケーションを心がけてきたがかかわりに差があった。 ・欠席児への連絡が遅れることがあった。 ・地域との交流については、可能な範囲で実施できたように思う。地域の方と関わることは、子どもにとって新たな経験となり、それを機に成長した姿も見られた。		・未就園児と保護者が安心して参加できる場となるよう、職員間で話し合うことで年齢や発達段階に応じた遊びの内容を再検討し、季節感や体験型活動を取り入れる等企画の充実に図る。 ・チェック体制を工夫し、偏りのないようにする。 ・欠席が続いた子には連絡を入れ丁寧に対応したい。 ・今後も地域の方に園の様子を知っていただき、連携を図りながら進めていきたい。	